

News release

景気の好転が今後2年間にわたる保険業界の成長を下支え: スイス・リーの のアニユアル保険展望レポート

- スイス・リーは 2016 年から 2017 年にかけて世界経済が緩やかに成長し、保険の伸びを下支えすると予想
- 損害保険料収入は新興国市場の 8~9%の伸びにけん引され、2016~17 年に改善の見込み
- 自然災害の再保険料率の下落は 2016 年に鈍化する見通し
- 生保各社は大きな課題を抱えながらも引き続き回復基調に乗り、保険料収入と収益率は改善を続ける公算
- 伝統的生命再保険料は新興国市場では健全に伸びる一方、先進国では伸び悩む見通し

ロンドン、2015年11月24日 – 来年の世界経済は緩やかな伸びが期待され、ほとんどの地域の保険料収入の伸びを下支えすると、スイス・リーの最新の刊行物『世界の保険: 2015年のレビューと2016年/2017年の展望』が明らかにしています。損害保険の需要は新興国市場の年率8~9%にけん引され、2016年から2017年にかけて拡大が予想されています。生命保険セクターは、持続的な低金利をはじめとする様々な課題に直面しています。それでも世界の生命保険料収入は今後2年間にわたり、新興国市場のけん引もあり毎年約4%伸びると予想されています。

来年の世界経済は、緩やかな伸びが期待されています。米国と英国の経済は現在 2.5%近い伸びとなり、日本とユーロ圏の実質国内総生産(GDP)の伸びはこれよりも低水準にとどまり、それぞれ 0.7%と 1.0%となっています。これらの4つの経済圏についてはいずれも、2016年に成長率に若干の改善がみられるものと期待されています。新興国市場の今後2年間については現在の4%ペースから改善し、年約5%ペースで伸びる見通しです。

世界経済においては、主に次の3つの逆風が吹いています。中国の成長減速、コモディティ価格の下落、そしてFRBによる早期利上げ懸念です。これらの逆風はベースライン予測のリスクとなるものの、現在改善しつつある成長の勢いを妨げる可能性は低いと考えられます。経済の全般的な改善と、米国と英国における金融政策の引き締め期待もあることから、国債利回り(特に米国債と英国債)は上昇していくものと思われる。

スイス・リーのチーフ・エコノミストであるカート・カールは次のように述べています。「世界的な経済成長は保険会社にとって良い兆候となります。これは特に新興国市場について言えることであり、これらの市場では都市化と資産拡大が業界全体の成長を下支えしていきます。新興国市場が保険業界の

Media Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 7171

New York
Telephone +1 914 828 6511

Hong Kong
Telephone +852 2582 3660

Investor Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
P.O. Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

成長の原動力になっていると言いはじめて数年が経過しますが、これは少なくともさらに数年先まで続くと考えています」

経済活動と共に改善していく損害保険収入の伸び

元受損害保険の需要は、今後 2 年先まで伸びていくものと思われます。世界の元受損害保険料収入の伸び率は今年の 2.5%から 2016 年は 3%、2017 年は 3.2%に改善する見込みです。先進国市場の伸び率は、全体的な価格の軟化と緩やかにしか改善しない経済成長が原因で、若干減速すると予想されています。損害保険の主な原動力は新興国市場であり、保険料収入の伸び率は 2015 年の 5.6%から 2016 年は 7.9%、2017 年は 8.7%になると予想されています。保険料収入の伸びが最も大きくなるのは新興アジア諸国(年率 12%)で、また中欧と東欧でも 2014 年と 2015 年の減少から一転して回復が見込まれています。

価格設定の環境が困難であるにもかかわらず、元受損害保険の引受業務については、自然災害による損害が少なかったことと過去年度の責任準備金の取り崩しが続いていることにより、これまでのところ収益が確保されています。損害再保険セクターの引受業務も今年に入ってから業績が好調で、これも自然災害による損害が少ない現状を背景としています。一方で、価格の下落に伴い、利益率は過去 2 年間で縮小してきています。自然災害の再保険料率は現在ほぼ底入れしており、ほとんどの種目で料率の下げ幅が緩やかになるか据え置かれる見込みです。カジュアルティーおよびスペシヤルティー保険分野では、料率の動きは市場と保険種目により大きく異なる見通しです。

表 1: 主要損害保険市場・地域における元受保険料収入の実質成長率(%)

国/地域	2013 年	2014 年	2015 年 推定	2016 年 予想	2017 年 予想
米国	3.2%	3.0%	3.8%	1.8%	1.3%
カナダ	2.7%	1.9%	2.7%	0.8%	2.3%
日本	7.7%	0.3%	2.5%	2.8%	1.0%
オーストラリア	5.7%	1.3%	-0.1%	0.7%	2.1%
英国	-1.8%	1.9%	2.3%	1.3%	2.2%
ドイツ	2.5%	2.9%	2.6%	1.7%	0.6%
フランス	0.1%	0.3%	0.7%	1.0%	1.4%
イタリア	-6.1%	-3.0%	-3.0%	-1.8%	1.5%
先進国市場 ^[1]	2.1%	2.0%	1.7%[2]	1.8%	1.7%
新興国市場	8.0%	6.3%	5.6%	7.9%	8.7%
世界	3.2%	2.8%	2.5%[2]	3.0%	3.2%

注:[1] 先進国市場には北米、西欧、イスラエル、オセアニア、日本、韓国、香港、シンガポール、台湾が含まれる。[2] 2015 年の先進国市場の実質成長率には、エネルギー価格の下落により消費者物価指数が 2015 年に 1 パーセントポイント低下したことから歪みが生じた。食品とエネルギー価格を除くコア CPI 指数を用いると、実質保険料収入の伸びはほとんどの成熟市場で 2015 年に若干減速した。

出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

生命保険会社は大きな課題を抱えるものの、保険料は伸びる見通し

元受生命保険会社は、世界の成長見通しが控えめなこと、低金利が続くこと、金融市場のボラティリティ、規制の変更から短期から中期にかけて大きな業績悪化のリスクを抱えています。それでも先進国市場においては、実質保険料収入が今年の約2%増から2016年と2017年には約2.5%増に改善する予想となっています。新興国市場では、保険料が2016年と2017年に推定10.7%増加する見通しです。この増収は、ウェアラブルデバイスやクラウドコンピューティングなど、現在利用可能な技術の導入が進んだことによるところが一部にあると考えられます。ここでも新興アジア諸国は、年率約13%と最も強い伸びとなる見通しです。多くの新興国市場における今後の主な課題は、リスクベースのソルベンシー体制の実施です。

表 2: 生命保険の既契約実質保険料収入の伸び

国/地域	2013年	2014年	2015年 推定	2016年 予想	2017年 予想
米国	-7.1%	-1.7%	1.3%	1.0%	2.3%
カナダ	3.0%	7.6%	3.4%	3.7%	3.8%
英国	-5.9%	-10.4%	3.3%	3.5%	3.2%
日本	-6.8%	7.1%	2.7%	3.0%	3.7%
オーストラリア	9.8%	26.5%	-5.8%	4.1%	2.1%
フランス	3.6%	8.4%	4.2%	2.6%	2.5%
ドイツ	2.5%	2.7%	3.1%	0.9%	0.9%
イタリア	20.6%	29.5%	2.8%	2.2%	2.6%
スペイン	-4.3%	-2.5%	-11.6%	0.3%	0.6%
オランダ	-5.9%	-5.2%	-10.0%	2.2%	1.7%
先進国市場 ^[1]	-2.5%	4.2%	1.9%	2.4%	2.6%
新興国市場	4.0%	7.4%	10.6%	10.7%	10.7%
世界	-1.5%	4.7%	3.3%	4.0%	4.2%

注:[1] 先進国市場には北米、西欧、イスラエル、オセアニア、日本、韓国、香港、シンガポール、台湾が含まれる。

出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

先進国市場では、生命保険料の成長が2016年と2017年に実質ベースで微減となる見込みです。米国では、キャプティブ再保険の利用に関する監視強化や原則主義的責任準備金積立に向けた動きの期待を含む規制の変化がビジネスチャンスに影響してきます。他の市場では、元受保険側の保障事業に歩調を合わせ、伝統的な生命再保険は1桁台という記録的に低い伸び率が続いていきます。新興国市場の生命再保険料の伸びは、2016年と2017年に年率で約7%~8%となると予想されています。

サブサハラアフリカ経済における逆風

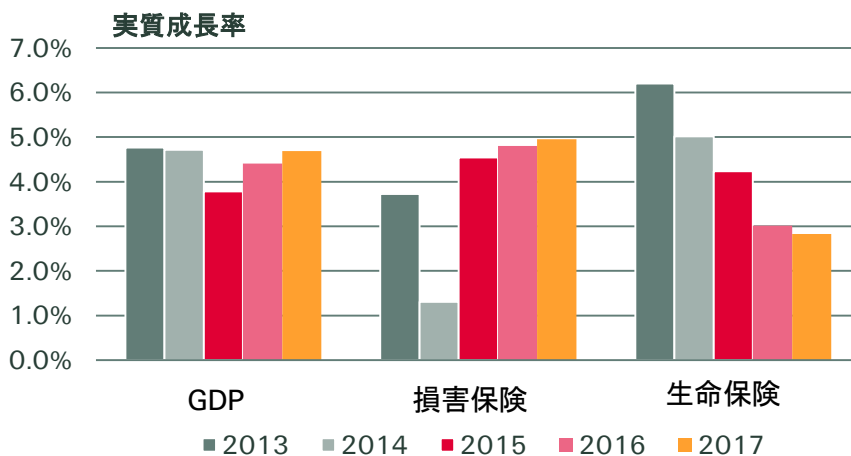
今年の展望レポートではサブサハラアフリカ(SSA)地域を取り上げています。この地域では、コモディティ価格の低迷が続き、資本が新興国市場から流出する逆風に直面しています。SSA地域のGDP成長率は2014年の4.7%から2015年には3.8%程度までの減速が予想されていますが、それでもこの地域は新興アジア諸国に次ぐ速い成長となっています。損害保険料収入の伸びは、キャッシュ・アンド・キャリーの原則の実施強化による前

年までの圧力から解放され、2015年には4.5%にまで改善しました。この原則の下では、保険料を受け取った後でなければ保険会社は保険証券の発行と保険料の計上をすることができません。南アフリカの保険料収入は、景気の低迷と競争の激化にもかかわらず、保険金実際支払額に基づき保険会社が保険料率を引き上げたことから、2015年には回復しています。

SSA地域の損害保険に対する需要は2016年から2017年にかけても堅固な状況が続き、石油輸出国やコモディティ輸出国の中には成約件数の伸び悩みや減少が予想される国もあるものの、保険料の伸びは4.5%～5.0%を維持するものと思われます。グローバルおよび地域の保険グループは引き続きSSA地域における足がかりを拡大し、この地域の営業力を広げていくでしょう。

同地域の生命保険料収入の推定伸び率は2014の5%から今年に入り4.2%に減速した模様で、2016年から2017年にかけてはさらに約2.5%まで成長が減速するものと思われます。南アフリカでは経済環境の改善に失敗し、南アフリカ・ランドが資本流出による打撃を受けたことから、2015年に伸びが3.8%まで悪化しました。SSA地域のその他の国々(ケニアやナイジェリアなど)では、強い成長が続くと予想されています。しかし、南アフリカが同地域保険料収入のおよそ9割を占めていることから、SSA地域全体の業績としては期待を下回るものとなりました。

図1: SSA地域における経済および保険市場の伸び



出所: スイス再保険会社経済調査・コンサルティング部

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。直接、またはブローカーを通して、世界中の保険会社、中規模企業から大企業、公共部門のお客様にサービスを提供しています。あらゆる保険種目の標準商品からテイラーメイドの商品までを携え、スイス・リーは、その資本基盤と、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にするための専門知識と革新力を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、世界約70カ所で事業拠点を展開しています。スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa3」、A.M. Best から「A+」の格付けを取得しています。スイス・リー・グループの持株会社である Swiss Re Ltd の登録株式は、スイス証券取引所のメインスタンダードに準拠して上場しており、ティッカーシンボル SREN で取引されています。スイス・リー・グループに関する詳細は、ウェブサイト (www.swissre.com) をご覧いただくか、または Twitter で ([@SwissRe](https://twitter.com/SwissRe)) をフォローしていただきますようお願い致します。